

# 学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名

山 梨

## 学校の概要

学校名	六郷町立六郷中学校				
学年	1 年	2 年	3 年	計	教職員数
学級数	1	1	1	3	1 4
生徒数	3 5	3 1	3 4	1 0 0	

## 研究の概要

### 1 研究主題

「心豊かで意欲的に活動する生徒の育成」  
確かな学力へのアプローチ ～授業展開・学習形態の工夫と改善を通して～

本校では学校教育目標である「たくましく心豊かで未来を拓く生徒の育成」を目指し、生徒たちが意欲的に学び、考え、活動できるように指導・援助し、日々の教育活動が行われている。恵まれた環境の中で生徒たちは前向きに活動しており学習に対する意識も比較的高いが、学ぶ意欲と実践力の向上が課題である。校内研究では、ここ数年間「心豊かで意欲的に活動する生徒の育成」を主題とし、「六郷っ子教育」の指定も受けながら、本校の特色ある教育を展開する中で「豊かな人間性」と「自ら学び、考え、活動できる力」を育てることを目標とし、分かる授業の創造と教育課程の工夫・改善に取り組んでいる。

今年度の教育課程編成上の重点は、授業時数の確保を基本とし、各教科等においてTTの授業や小集団学習を実施し、指導体制や学習形態を工夫するなど細やかな指導、個に応じた指導を充実させる、総合的な学習の時間、各教科、特別活動等の指導において調査・研究・討論・発表などの問題解決的な学習や体験的学習を推進する、生徒の興味、関心、理解、習熟などに応じた選択教科を実施する、朝読書を継続し読書活動を充実させる、ことに置いており、基礎・基本の定着と学ぶ力（気づく力、考える力、理解する力、判断する力、表現する力等）の育成が本校の教育課程の工夫のねらいでもあり研究内容の柱ともなるものである。また、今年度から2年間「山梨県学力向上フロンティア事業」のフロンティアスクールに指定され、生徒一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る観点から、「発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発」「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」「生徒の学力の評価を生かした指導の改善」など「確かな学力」の向上のための実践研究を一体的に行うことが求められている。

そこで、昨年度までの研究の成果と課題、今年度の教育課程編成の重点、及びフロンティアスクールの指定をふまえ、生徒の実態に即し、授業展開、指導体制（TT）、学習形態（小集団）、評価などの工夫を行いながら、生徒一人一人の学び、考え、活動する意欲をはぐくみ、確かな学力を身に付けることを目指して、研究主題を「心豊かで意欲的に活動する生徒の育成」、サブテーマを、確かな学力へのアプローチ～授業展開・学習展開の工

夫と改善を通して～と設定した。

## 2 研究内容与方法

### (1) 実施学年・教科

研究の初年度はまず日々の授業実践を通して生徒の学習状況や実態を把握しながら、各教科の「身に付けさせたい力」を明らかにし、そのための指導方法（授業展開、学習形態、支援・評価）と教材開発の工夫の取組に重点を置いた。本校の教員は、数学2人、国語、社会、理科、英語、音楽、技術、保健体育はそれぞれ1人であり、家庭、美術は時間講師である。今年度は5教科中心に研究と実践を進めることとした。

研究の課題は以下の通りである。

国語	全学年	TTを中心とした授業展開、指導方法の工夫と改善
数学	全学年	TTと小集団学習の工夫と改善
英語	全学年	TTと小集団学習の工夫と改善
社会	全学年	授業展開、学習形態等の指導方法の工夫と改善
理科	全学年	授業展開、学習形態等の指導方法の工夫と改善

研究授業は国語、数学、英語、社会、理科の5教科で行い、全体研究会で討議を深めることとした。数学（TT）、国語（他教科の教員とのTT）、英語（ALTとのTT）では指導方法、特にTTの工夫と改善を課題として研究を進めた。また数学と英語では個人差に対応できるように小集団学習（週1時間）も開始した。社会、理科では教材提示、授業展開、学習形態の工夫と改善を課題として研究を進めた。

### (2) 年次ごとの計画

#### 平成15年度の研究

#### ・研究テーマ

「確かな学力へのアプローチ～授業展開・学習形態の工夫と改善を通して」

#### ・研究仮説

学習活動の展開、形態、教材の在り方を工夫し、きめ細かな指導・援助・評価を繰り返しながら、基礎的・基本的な内容の定着を図り、学び方を身に付けさせることにより、一人一人の学習意欲と実践力が高まり、学力が向上するであろう。

#### ・研究の経過と内容

月日	研究会等	主な研究内容
4・28	第1回校内研究会	平成15年度の校内研究の主題、研究内容について 研究計画と研究方法について
5・19	第2回校内研究会	研究主題、仮説、研究内容について 学力、基礎基本、意欲のとらえ方について 生徒の実態をどうとらえるかについて
6・13	第3回校内研究会	指導主事を招聘しての学習会 主題、仮説、研究内容等への指導・助言 「学力」「基礎・基本」のとらえ方について

7・2	第4回校内研究会	第1学年英語科研究授業 佐野啓子教諭,堀達彦教諭,マット・エクルス(ALT)の3人によるTT授業
8・18	第5回校内研究会	教科研究の内容(身に付けさせたい力と指導重点) ・授業展開,指導方法,学習形態等の工夫の実践例 教科研究の今後の方向
9・24	第6回校内研究会	スクールカウンセラーを招聘しての学習会
10・15	第7回校内研究会	第3学年理科研究授業 深澤裕治教諭
11・26	第8回校内研究会	第2学年国語科研究授業 渡井渡教諭,長田紀子教諭によるTT授業
12・12	第9回校内研究会	第2学年社会科研究授業 岸本伸教諭
1・30	第10回校内研究会	第1学年数学科研究授業 伊藤浩一教諭,望月一夫教諭によるTT授業
2・18	第11回校内研究会	今年度の研究の反省と来年度の研究の方向 今年度の成果と課題 研究のまとめと来年度の研究の方向性
3・17	第12回校内研究会	来年度の研究の方向性

・ 研究の方法

- 1) 全体研究会を毎月一回開く
- 2) 研究推進会議を全体会の前に開き,原案,授業案等を検討する。  
研究推進委員は校長,教頭,教務主任,研究主任,副主任,(授業者)
- 3) 各教科の「基礎的・基本的内容」とは何か,「各教科で身に付けさせたい力」について検討する。
- 4) 各教科で指導方法,学習形態,教材開発等の研究を進め,授業を公開する。
- 5) 指導方法の工夫と改善について各教科の重点課題を絞り研究を進める。
- 6) 研究授業を行い,その後全体研究会を開き研究を深める。
- 7) 理論研究,学習会,研究授業にはできるだけ講師,指導助言者を招聘する。
- 8) 先進的な学校の研究に学ぶための視察等を行う。
- 9) 小中の連携を図り,研究と実践の交流の場を設ける。
- 10) 生徒の実態調査や学習状況の把握のための評価の工夫を行う。

平成16年度の研究

・ 研究テーマ

「確かな学力へのアプローチ～授業展開・学習形態の工夫と改善を通して～」を継続していく

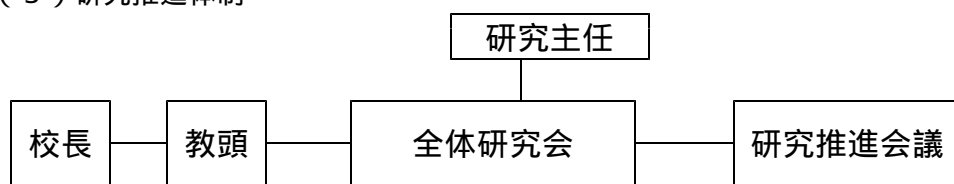
・ 研究の見通し

「研究仮説」についてはより具体的な研究,実践が進むために再検討する。各教科で今年度実践された学習活動の展開,形態,教材の工夫,及び指導,支援,評価の工夫をより焦点化し取り組み,検証につなげていきたい。その中で,学び方を身に付けさせる指導,支援については研究の課題としていきたい。

・ 研究の内容と方法

平成15年度の内容と方法を継続する予定であるが,仮説の検証の方法について,指導と評価の工夫についてさらに検討を進めていきたい。

### (3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果と今後の課題

#### 1 研究成果

##### (1) 魅力ある授業づくり

昨年度の研究「適切な指導と評価」の成果と課題を引き継ぎながら、学校教育活動の中心である「授業」、魅力ある「各教科」の授業づくりに取り組んだ1年であった。「学力」、「確かな学力」の共通理解、基礎・基本のとらえ方、各教科の「身に付けさせたい力」及び指導重点を検討し、授業展開、学習形態など指導方法の工夫と改善に取り組んだ。研究の方向が次第に明確になってきたことは成果である。

##### (2) 基礎的・基本的な内容の定着と指導・評価の改善

本校では「学力」＝「確かな学力」ととらえ、「基礎的・基本的な内容」が身に付いた、「自ら学び、考え、判断し、行動する力」(生きる力)の基となる力と考えた。また基礎的・基本的な「知識・技能」(測定が可能な見えやすい学力)とともに、基礎的・基本的な「思考力・判断力・表現力など」(測定が難しい見えにくい学力)も重要な学力であり、「学ぶ意欲、態度、習慣、方法」を含めて学力と考え、学力調査や授業評価などの結果、各教科で行っている評価の蓄積を授業に役立てることができた。基礎学力テスト(国語・数学・英語)を2回実施し、達成率は高くなっている。

#### 2 今後の課題

- ・今年度の研究のまとめをする中で各教科の取組の指導重点を振り返り、「身に付けさせたい力」がどうであったかを把握し、来年度の研究及び仮説検証につなげる。
- ・T T(国語・数学・英語)の授業形態の在り方と小集団(数学・英語)の授業を振り返り来年度の研究につなげる。
- ・「学ぶ意欲」と「学習習慣(家庭学習の定着)」「学習方法」など「学び方」への指導、支援の在り方を検討していく。

学力把握のための学校としての取組

- ・学力実態調査の実施
- ・意識調査の実施
- ・学校の定期考査 基礎学力テスト、各教科のテストの改善
- ・自己評価(各授業、単元、学期)の継続と改善
- ・フロンティアスクールとしての研究成果の普及
- ・来年度も校内研究会の授業実践を公開し、小中の連携を図る。また、小規模校であるため、郡内の他校の教員(各教科)との連携を図る。
- ・学校開放(生活参観)の機会を年間3回(3週間)実施する。来年度も継続する。
  - \* 保護者、地域への広報活動の継続
- ・平成16年度 11月19日(金)研究発表会(授業公開)の予定

\* 15年度からの新規校      \* 学級規模 6学級以下      \* 指導体制 少人数指導 T Tによる指導      \* 研究教科 国語 数学 英語 社会 理科 音楽 技術 保健体育      \* 指導方法の工夫改善に関わる加配 なし